

の希更山の会の増田、新人の山田栗原、藤巻、大川も喜びをかみしめる。最後の毛利、青木、杉澤を8ミリに収めると、ダイヤモンドダストが光って流れた。全員で感想を述べてもらい8ミリに収録。

達は松本盆地に向かうへりを何ともいえない気持で見送った。翌日沢渡のゲートで聞くとやはり横尾尾根で遭難した金沢大生でヘリに乗りきれないでアミで降ろしたとの事だった。

蝶の登り返しはきつかった。登り切ると安心したせいか、隊列は乱れダラダラとBCに向かう。点呼すると増田がいない。昨年同様尾根を右に折れBCに向かうのを真直ぐ進み蝶ヶ岳山荘まで行つてしまつたのだ。大いに反省した。

やさしい山なので多くの会員が参加出来るよう条件作りをした。女性で青木は2年、川口は3年連続の参加。特に川口は女性の冬山に年齢がないことを実証した。B隊は6名で天狗岳で実施。

第13期冬山合宿

橫尾尾很

杉澤  
康秀

カーラクシテント

12月29日(天気記録なし)

^\times タイム\^v 三島20 : 00 S 沢渡24

30 (泊)

一  
二  
三  
四

4名のハリテー卜たか吉沢に

山後、長野の親戚に寄るとのこと

なので2台の車で出発。道路の二

は例年より少なく況渡までタイ

チエリ／は要つな／、ニ曲所／

の、云々に要りがいと油斷し

の失敗だった。沢渡の最終ゲ

トの500m手前、緩い坂を登

きつて下りに差し掛かったとき、

そこだけ道路が凍結しているのに気がついた。しかし、その時既に遅く、前方に立ち往生している車に吸い込まれるように追突。杉澤車は前部大破。相手のワゴン車は後部ドアとバンパーを損傷。物的損害、入山前の精神的ダメージは大きかったが、怪我人が無かつたのは不幸中の幸いだった。